

SUFD Report 2024

令和6(2024)年度 仙台大学FD年次活動報告



本学では、教員を中心に FD 活動を実施している。主な活動は、(1) 学内 FD 研修会の企画運営実施、(2) 授業改善アンケートの実施、(3) シラバス・ルーブリック作成の支援、(4) FD 活動の広報・周知である。

(1) 学内 FD 研修会の企画運営実施

本年度は、次の4つの研修会を実施した。

① 新任教員 FD セミナー

4月2日(火)に今年度着任した新任教員を対象としたスタートアップ支援FDセミナーを開催した。本学のカリキュラムをはじめとする教務に関する事項とFD活動等について説明をした。

② 学修状況調査の概要報告研修会

本学では6月5日(水)から7月12日(金)にかけて、学生に対する支援と指導のために日常の学生の学修状況について、基礎的な資料を得ることを目的とした学修状況調査を全学生に Web

アンケートにて実施した。この調査結果については、回答率が約75%となり、9月24日(火)に開催した教授会で報告を行った。この調査結果を通して、学年、学科、希望する進路、スポーツ活動の有無等と学修状況との関係が示された。

③ 授業改善 FD 研修会

9月24日(火)に情報・データサイエンス教育運営チームと共催で研修会を開催した。講義型・実習型に分けて2023年度の授業評価アンケートが高評価の教員や、学科代表の教員へ依頼し、実際の取り組み事例などの説明を行い、情報・データサイエンス教育運営チームからは、ICTを利活用した教育事例紹介を行った。

④ 授業づくりのためのFD研修会

本学では、学生と教員が参加する研修会を毎年開催している。今年度は、「グループワークの困りごと」をテーマに掲げ、12月10日（火）に研修会を開催した。対面で教員と学生が集まり、教員と学生を交えたグループをつくり、グループワークと、ディスカッションを行った。

（2）授業改善アンケートの実施

原則としてすべての科目を対象に「FD ネットワーク “つばさ”」のフォーマットで「授業改善アンケート」を受講学生全員に実施した。個々の授業の改善を目指し、授業内容・教授方法に対する学生の反応を探ることが、本アンケートの大きな狙いの一つである。

結果は、本学独自の「授業改善アンケート活用フォーム」を用いて、集計結果を基に各教員が担当科目と全体平均などとの比較が出来るようになっている。

実施期間：年2回

（1）令和6年7月16日（火）～令和6年7月29日（月）

（2）令和7年1月9日（木）～令和7年1月27日（月）

（3）シラバス・ループリック作成の支援

教育改善企画運営委員会では毎年次年度の様式や記載内容の項目について検討し、統一様式により、原則すべての開講科目について作成を依頼している。学生にとってよりわかりやすいシラバス・ループリックとするために、本年度も教員に配布しているシラバス・ループリック作成要領（「シラバス・ループリック作成の手引き」）の見直しを行った。なお、シラバス・ループリックは本学ホームページにも掲載し、保護者等も閲覧できるようにしている。

（4）FD活動の広報・周知

① FD 広報冊子の作成

本学では、FD 広報冊子（SUFD Report）を年に1度発行している。この冊子の発行の目的は、本学の教育改善企画運営委員会が実施しているFD活動の内容を、学内外に周知することである。

②学外のFD研修会情報の提供

学外において開催されているFD研修会についての情報提供を行っている。メールやポスター等で届いた開催案内を教員向けに整理し、全教員を対象にメールで周知をしている。今年度については、1名の委員が「第26回基盤教育ワークショップ」にオンラインにて参加した。



報告 REPORT

2024 年度 新任教員のための FD セミナー



開催プログラム

日 時：令和6年4月2日（火）15:00～16:30
会 場：A棟2階 大会議室

時刻	内容		
15:00	開会挨拶		
15:05	教務について		
	① 履修登録と成績評価		
	② 教室での機材の利用		
	③ 学生の出欠管理		
	④ 学生への連絡・告知		
	⑤ 休講		
	⑥ オフィスアワー		
	⑦ その他（週間時間表記載以外の教師の使用など）		
15:20	カリキュラムについて		
	① カリキュラムポリシー		
	② カリキュラム全体の編成		
	③ 担任制		
15:35	教養教育について		
	① 体育系大学の基礎教養		
	② 仙台大学の専門教養演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		
	③ 学習基礎教養演習		
15:50	FD 活動について		
	① FD 活動とは		
	② シラバス（授業概要）		
	③ 授業改善アンケート		
	④ FD 研修会		
16:05	倫理審査について		
	① 研究倫理の必要性		
	② 本学における倫理審査の流れ		
16:20	フリートーク（質問疑問など）		
	グループ	新任教員	FD 委員
	①	石澤 浩二、金漢 老、宮田 洋之	*平良 拓哉、白幡 真紀
	②	猪狩 一彦、庄子 佳吾、平山 相太	*佐藤 周平、齋藤 長行
	③	鈴木 秀利、小川 真季、阿部 弘生	*後藤 満枝、山口 恭正
	④	中里 和裕、松井 陽子	*林 直樹、遠藤 教昭
	*コーディネーター役		
16:45	閉会挨拶		

報告 REPORT

令和 6 年度 授業改善 FD 研修会について

目 的：授業評価の高い教員の授業の実践例を聞くこと、また、「ICT スキルの向上及びオンライン授業の高度化」は、本学教員に求められる能力のため、高度な取り組み事例を聞くこと等によって、今後の授業の参考とする。

さらには、本学の DX に関する取組を学内に留めず、学外の方にも紹介して普及を図る。

主 催：教育改善企画運営委員会

共 催：情報・データサイエンス教育運営チーム

日 時：令和 6 年 9 月 24 日（火）教授会終了後

対 象 者：仙台大学教員 外部一般参加希望者

開催方法：オンライン（Meet）による開催

内 容：

第一部：高評価授業担当者による教育事例紹介（各 15 分）

＜講師＞

講義型 野口翔講師

第二部：学科からの教育事例紹介

＜講師＞

実習型 福田伸雄准教授

第三部：ICT を利活用した教育事例紹介（15 分）

＜講師＞

齋藤長行教授

・FD 委員会の年度目標にある「ICT スキルの向上及びオンライン授業の高度化」をテーマとした研修会を開催した。2023 年度の授業評価アンケートの高評価授業担当者と、学科代表（今回は健康福祉学科）に講師を依頼し、講義と実習のそれぞれの形態についての教育事例紹介を実施した。また、情報・データサイエンス教育運営チームからは、ICT を利活用した教育事例について、説明を行った。

「教育事例紹介」野口翔

令和6年度
授業改善FD研修会
教育事例紹介(講義型)

授業科目: スポーツ施設管理概論 I

野口 翔

授業の方法: 見学会

グランディ・21(宮城総合運動公園)
公益財団法人宮城県スポーツ協会

見学ルート

- ①みやぎ生協めぐみ野サッカー場
- ②テニスコート
- ③プール
- ④アリーナ
- ⑤補助競技場
- ⑥キューアソシエーションスタジアムみやぎ



授業の概要

対象者 : 体育学科3年生
科目区分: 発展科目
受講人数: 約50名

□「公認スポーツ施設管理士」の関連科目

成績の評価方法

□小テスト2回	20%
□定期試験	50%
□授業外課題	30%

- 小テストと定期試験は紙で実施
- 小テストは解答用紙は返却し次回で答え合わせ

「公認スポーツ施設管理士」について

公益財団法人 日本スポーツ施設協会
令和5年度時点で10,871名の有資格者

仙台大学

→公認スポーツ施設管理士養成講座認定校

□スポーツ施設管理概論 I

□スポーツ施設管理概論 II

□スポーツ施設の経営・管理

18年間で
642名が合格

授業外課題

「商業スポーツ施設の経営理念、社是、社訓」

- ①テーマ(商業スポーツ施設の名前)
- ②はじめに:なぜこの商業スポーツ施設なのか?
- ③内容(経営理念、社是、社訓)
- ④あとがき

- 授業の復習
- 就職活動に役立つ
- スライド作成の練習

GCRにPowerPointもしくはGoogleスライドで提出
→提出した課題を発表



授業の方法

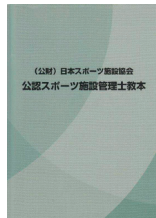
「公認スポーツ施設管理士教本」
を参考に授業を実施

□基本的にスライドを使用

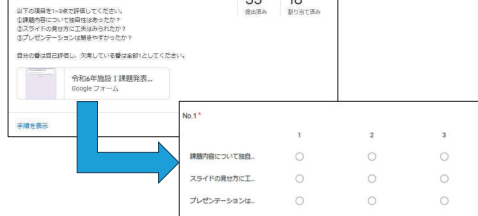
教本の中で重要な箇所を**赤字**で示す

□学生は重要な箇所を教本に板書する

□資料は授業終了後にPDFファイルにして配布



課題発表



1)刈込作業

授業用スライド

- 競技パフォーマンスを維持するため
- 雑草の抑制、密度上がる
- 品質向上(病気抑制)
- 植物にとっては生理的に有害
- 植物の生育を阻む
- 刈痕から雑菌侵入(病気になる)

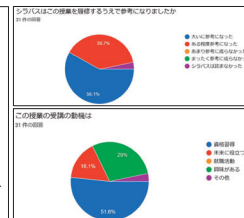


1/3法

その後の生育に悪影響を及ぼさない高さの限度

独自のアンケート結果(令和5年度)

- この授業を通して、良かった点や改善すべき点などが有れば記入してください
- スライドの量が多いため、できるだけ減らして口頭での説明の方がわかりやすい。
- 授業のスライドがややみにくかった。
- 実習で実際にやる事が出来て、良い経験になりました。
- スポーツ施設についてや整備の仕方などについて学べてとても良かったです。
- 先生に質問しやすく、分からない部分を解決できた



授業の方法: 実習

芝刈り実習



にがり散布実習



- 整備の道具の取り扱い
- 均一に維持すること

まとめ

授業で気をつけていること

- ・授業の妨げになる行為に関しては厳格に対応する
- ・写真や動画などを入れ視覚的にわかりやすくなるようにする
- ・実物を出来る限りみせ、物に触れるようにすること

今後の改善点

- ・一方的な授業になっている

仙台大学 福田 伸雄

内容

- ・介護実習の概要紹介
- ・GCRを活用したコロナ禍の介護実習運営
- ・GCRを活用した実習運営
- ・今後の実習運営

介護実習指導の実際

- ・大学と契約している実習施設で実習を行う。
- ・実習施設先の実習指導者と実習担当教員が連携を図りながら学生の実習指導を行う。
- ・厚生労働省が定める「社会福祉士学校及び介護福祉士学校の設置及び運営に係る指針」により、担当教員は「**実習期間中に各介護実習施設等を週1回以上巡回して、個々の生徒について実習の課題を把握し、当該介護実習実習施設における実習目標の達成状況を踏まえ、目標達成のための具体的な方法について指導を行うこと**。」とされている。

		前期						後期				
		5月	6月	7月	8月	9月		10月	11月	12月	1月	2月
2 年生	通常				介護実習Ⅰ (12日間×2Q)							
3 年生	通常	介護実習Ⅱ (23日間)			介護実習Ⅲ (23日間)							

介護実習Ⅰ：施設の理解、施設職員の理解、利用者の理解、日常生活支援の見学

- 施設概要をまとめる、利用者に関するフェイスシートを作成する
- 介護実習Ⅱ：**介護過程の基礎的理解、日常生活支援の見学・実践
- 1名の利用者に対する介護過程の展開
(情報収集～介護計画立案まで)
- 介護実習Ⅲ：**介護過程の応用的な理解、日常生活支援の実践、夜勤実習
- 1名の利用者に対する介護過程の展開
(情報収集～介護計画評価まで)

介護実習日記

[illegible]

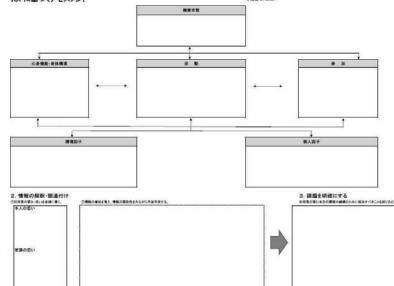
介護実習Ⅰ用 介護実習施設の概要

[illegible]

フェイスシート

[illegible]

1018 6474232



會議計圖表 No.____

表頭情報			表項目情報	姓	名	標準JIS漢字(全角)
〇一不連続	姓	名	姓	名	姓	名

実習巡回の一例

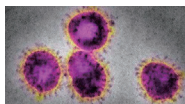


GCR活用前 実習指導の課題

- ・巡回指導では、まずは、学生の記載した実習日誌を確認してから学生への実習指導や実習指導者との情報交換をしなければならず、1施設あたりの巡回指導の時間が膨大にかかる。
- ・学生が実習目標を達成するためには、学生の実習の進捗状況を想像しながら行わなければならない。
- ・週1回の巡回指導では、足りないことが多く、週2回以上、巡回指導に行くこともあるが、タイムリーな巡回指導ができないこともある。
- ・実習施設の指導者は、紙ベースでの実習日誌の運用では、タイムリーな実習指導ができないことがあった。

GCRを活用した コロナ禍の介護実習運営

新型コロナウイルスに伴う特例措置

[illegible]

コロナ禍での実習①

- ・本学では2020年6月～学生全員にiPadを貸与。
(iPad with Wi-Fi + Cellularモデル通信費込み)
- ・ブラウザは  コンテンツは    
Classroom ドライブ Meet Gmail
- ・基本的にあらかじめ施設から頂戴した画像・動画データを学内で視聴施設と直接リアルタイムでつないで実施
(オンデマンドよりリアルタイムを併用しながら運営)



コロナ禍での実習②

	日	火	水	木	金	土
	1/31	2/1	2/2	2/3	2/4	2/5
			2/6	2/8	2/9	2/10
JOI			東京五輪 開会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）
FM			東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）
	2/7	2/8	2/9	2/10	2/11	2/12
	2/13	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18
JOI			東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）
FM			東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）
	2/14	2/15	2/16	2/17	2/18	2/19
	2/20	2/21	2/22	2/23	2/24	2/25
JOI	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）
			東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）	東京五輪 閉会式 （五輪旗 降参列）

1週目：実習施設概要をまとめることができる。
71イラストを記入することができる。

2週目：71イラストを完成させることができる

コロナ禍での実習③



介護実習Ⅰ（最終日の様子）



オンライン実習のメリット

- ・実習指導者、教員も学生の学びや悩みを共有できる。
- ・クラスルーム、ドライブで資料が即時に共有でき、プログラムが可視化できる。
- ・同じ記録物や画像、動画を見ている ⇔ 指導はしやすい
いつでも繰り返し資料を確認することができる。
- ・1名の受け持ち利用者であっても、介護過程の展開(アセスメント、支援計画、評価)は多様であった。

オンライン実習のデメリット

- ・感染症対策を徹底して基本的に学内での実習運営。
- ・学習の進捗状況を踏まえた飽きないプログラムの提供。
- ・使用機材やiPadの使用、実習内容など施設との打ち合わせ
- ・施設指導者や担当教員の負担は大きい
(動画や画像の編集と整理、実習期間中の拘束時間、記録物や日誌の返却、打ち合わせ、講義)
- ・学生「リモートでは現場の雰囲気は学べない」

GCRを活用した実習運営

背景と目的

- ・わが国では、Society 5.0時代においてICTやAI等の先端技術の活用によって教育にも変革が求められている。加えて、昨今の新型コロナウイルス感染症も相まって授業の遠隔化、ICT教育の加速化もある。

今回、学習効果の高い介護福祉教育ならびに実習運営を目指すことを目的に、介護実習においてICTを試行的に導入した成果を報告する。

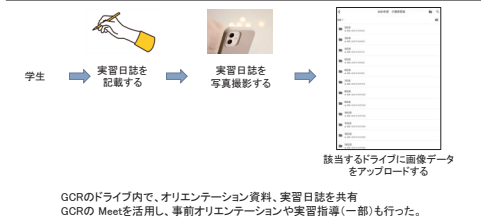
調査方法

実施期間 : 2021年8月から11月までの期間
対象 : 介護実習Ⅲに参加している1施設の7名の学生および実習指導者3名
使用機器 : iPad (Wi-Fi + Cellularモデル)
使用コンテンツ: GCR
調査方法 : 実習終了後に実習生や実習指導者に同意を得た上でiPadを使用した感想、意見を聴取り、その内容をメリット、デメリットに整理した。

その他

- 実習生は負担感を全く抱かずに実施できた。
- **実習生より、実習日誌は手書きではなく、オンライン上のコンテンツ (Googleドキュメント) を使用して記録を行いたいと要望があった。**
- 実習施設の指導者から、普段の授業においても介護福祉教育に貢献したいとの意見があった。

運用方法



考察・まとめ

- 文部科学省が「Society 5.0 に向けた人材育成」を提言している中に、「スタディー・ログを活用した学びのポートフォリオ」とあるが、今回のiPadを活用し、GCRを使用した実習では、多くの学習効果が確認することが出来る場面も垣間見られた。
- ハード面、ソフト面の対策は必要だが、iPadでGCRを使用した実習運営を導入するメリットが大きい。新たに通常の授業で展開できる可能性があり、今後も環境や運用方法を整備しながら継続、教育の質の向上を図っていきたい。

倫理的配慮

- iPadは授業目的以外で使用するできない設定になっている。
- ソフトウェアは常に最新の状態にしておくこと。
- 実習日誌は個人が特定できないよう実習施設名、実習指導者名、担当利用者名はイニシャルで記載すること。
- 画像データのアップロード後には、速やかにiPadから画像データを削除することなど実習の事前・中指導で説明し、細心の注意を払い実施した。
- 実習終了後に実習生や実習指導者に同意を得た上で調査を行い、得られた結果は個人が特定できないよう処理し整理した。

今後の実習運営

結果

介護実習支援システムの概要

学生が実習時に作成する実習日誌や実習評価などを実習支援システム上に登録し、指導者・教員の皆様と共有することで、「実習の円滑な実施」や「学習効果向上」を目的としたシステムです。

介護実習支援システム ユーザー別機能

- | | | |
|---|--|---|
|
● 学生の实習状況
指導内容の確認
● 巡回指導時の記録
を登録
● 学生/指導者と
メッセージ交換 |
● 実習日誌
チェックリスト
実習評価の登録
● 自己紹介、実習
目標の登録 |
● 実習日誌の確認
コメント登録
● 実習評価表の確認
指導者評価の登録 |
|---|--|---|

GCR導入のメリット

- 実習の事前指導、実習中指導を実習生、実習指導者、担当教員がともに確認することができた。
- 各実習日の終了後、実習生がアップロードした実習日誌を複数の実習指導者、担当教員が同時に確認することができ、各学生の進捗状況に応じた指導・助言に反映することができた。
- 担当教員は巡回指導の回数が減ったが、巡回指導時に実習日誌を読むことに時間が割かれることなく、短時間で的確で効果的な指導が行えた。

【作成した記録類 (サンプル)】



GCR導入時のデメリット

- 運用方法を確立するために通常業務よりも多く時間が割かれた。
- 実習指導者ならびに担当教員は、時間外に学生が記載した実習日誌を確認することとなった。
- 複数の実習指導者がiPad、GCRなどの操作方法を理解することが必要であるため、操作へ慣れる時間が必要だった。

参考・引用文献

- 堀江竜弥、他「介護福祉教育における記録のDX化に関する一考察-実習支援システム導入の試みと課題-」第32回日本介護福祉学会大会2024.08
- 後藤満枝、他「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行下におけるiPadを活用した学内介護実習の取り組みと学生の自己評価について」仙台大紀要 53 (1) 35 - 49 2021.9
- 堀江竜弥、他「iPadを活用したオンライン学内実習の取り組み (特集 新型コロナウイルス感染拡大下における介護実習の現状と課題)」介護福祉教育 25 (1) 13 - 15 2021.4 他

「スポーツ情報マスメディア学科」 齋藤長行

ICTを活用した教育事例紹介

**学生の学びを深めるための
ICT の活用**

スポーツ情報マスメディア学科
齋藤長行

学びの場としての教室

- 私の教室における立ち位置
 - 個人的には、学生諸子の学びを促進させるファシリテーター、メンター、チューター
 - 必要に応じて教員の側面を出す

教室

主役は
学生さん

授業が行わ
れる場

学生が学ぶ場
教員も一緒に学ぶ場

よい学びに導くために

自ら知識を得ることを支援する

「へーっ、なんか面白そう。」
「これって、どうなの？」

助けを求めやすい環境を提供する

「あ、...っ。これって、どういことなの？ちょっと教えて。」

成長していることを実感できる

「なるほどね。」
「あ、そういうことなのね。」
「あ、できちゃった。」

深く考えるように促す

「なんで、そうなの？」
「どうやったらうまくいくんだろう？」

直感的な気づきを深い学びにつなげる

直感的な気づき
情緒的動機

二重過程理論による人間行動のシステム

システム1	システム2
無意識的	意識的
暗示的	明示的
自動的	制御的
努力は不要	努力が必要
反射的	時間を要する
知覚的な意識	分析、熟慮

深い学び
熟慮

人間の行動の90～95%が無意識下での行動 (Zaltman, 2003)

よい学びのために心がけていること

- 主体的な学びの支援：**
 - 自ら学ぶ意欲を持ち、積極的に学習に取り組むことを促す
 - 学習の自分事化
- 批判的思考：**
 - 自分で考え、疑問を持つ
 - 「なんで？」「本当に？」「別の方法があるのでは？」「違いは何？」
 - 自己批判的学びの促進
- フィードバックと内省：**
 - フィードバックにより内省を促す
 - 自ら学びを振り返り、改善点を見つけることを支援
- 協働学習：**
 - 他者と協力し、対話しなが知を深める
 - 周りに助けを求めることができる環境

学習者
中心主義

反転学習

ICTの活用

反転学習 (Flipped Learning)

・教室での学習と自宅における復習を反転させる

自宅で予習

➡

教室で復習

友達と学び合い

シラバスには、4時間もの自学自習時間が設定されています！

知識が入った状態で
授業に参加できる

知識の深化

自己調整学習

主体的な学び

アクティブラーニング

アクティブラーニングを支える思想、理念

- ジェローム・ブルナー (1961):
 - 学習者が自らの知識を構築するための支援を提供する「発見学習 (Discovery Learning)」の概念を提唱
 - 教育の目的は単に知識を伝えることなく、学習者が自ら問題を解決する能力を養うことにある
- ジャン・ピアジェ
 - 自らの経験を通じて知識を獲得する
 - 学習は能動的なプロセスである
- レフ・ヴィゴツキー
 - 社会的相互作用が学習において重要な役割を果たす (最近接発達領域 (Zone of Proximal Development, ZPD))
 - 学習者が他者との協働を通じてより高いレベルの理解に到達する

齋藤の授業における学習プロセス

齋藤は、ファシリテーター役
学生諸子の学びをサポート

自宅
で予習

➡

教室で
復習
学び合い
プレゼン

➡

学んだことを
アウトプット
(課題)

➡

自宅
学習

次回の授業の範囲
の教科書の章の
・通読
・要約

反転
学習

ICT活用による
主体的な学びの
実現

GCRで自己管理

Google Chatを使った協働学習

協働学習環境

学習の自分事化
メタ学習力の向上

メディアの適切利用のためにはどのような取組が必要ですか？ 5 W1Hで説明してください。

論理的思考力、抽象力

「良いところ」「もっと良くするために改善すべきところ」をコメントしてください。

協働学習力、コミュニケーション力

それは、他のどのような社会問題解決に応用することができますか？

転移学習によるアナロジー思考

ここまでの学習を総括して、あなたの「主張」その主張を支える「根拠」それらの関係を説明する「論拠」を記載してください。

論述力、批判的思考力

ご清聴ありがとうございました。

よい学びを提供するために

- 単に知識を得る
- 深い理解や
- 実践的なスキルを身につける
- ことを目指すものです。以下の要素が含まれます



令和 6 年度 学修調査の概要報告

- 【目的】
- ・本調査の目的は、学生に対する支援と指導のため、日常の学生の学修状況についての基礎的な資料を得ることである。
- 【方法】
1. 調査対象
 - ・体育学部 に所属する全学生を対象として調査を実施した。
 2. 調査内容
 - ・「学生の学修状況に関する調査」というアンケートを Google フォームにて作成し、調査に使用した。
 - ・質問内容は以下の通りである。：
 - ①基礎的情報： 性別、学年、学科
 - ②授業時間以外での自主的な学習時間（1日あたりの平均）
 - ③授業時間以外での運動やスポーツ活動の時間（1日あたりの平均）
 - ④大学での学習で最も力を入れていること
 - ⑤高校3年時での授業時間以外での自主的な学習時間（1日あたりの平均）
 - ⑥高校3年時での授業時間以外での運動やスポーツ活動の時間（1日あたりの平均）
 - ⑦卒業後の進路として最も希望していること
 3. 調査の手続き
 - ・調査期間は令和6年6月5日（水）～7月12日（金）である。
 - ・1年生は各クラスの、2年生以上は学科又はコースのオリエンテーションで使用した Google クラブルーム内で、「課題」として Google フォームの URL を配布、期日までの回答を依頼した。
 4. 統計解析
 - ・得られた結果は各学年及び学科に占める割合（％）で示した。
 - ・各学年、学科および性別と質問項目をクロス集計し、 χ^2 検定を行った。有意水準は5％とした。 χ^2 検定で有意差がみられた項目についてはさらに残差分析を行い、どのセルに有意差がみられたかを明らかにした。

- 【結果】
1. 回答率について
 - ・学科学年別の回答者数と回答率を表1と表2に示した。全体での回答率は73％となった。
 - ・学年別の回答率では1年（89％）3年（82％）と比較的高いが、2年（60％）4年（63％）と低くなっている。
 - ・学年のその他は本調査においては4年としている。

学科	1年生	2年生	3年生	4年生	その他	総計
体育	301	192	274	257	1	1025
健福	84	63	72	37	1	257
栄養	75	56	52	48		231
ス情	46	26	32	12	2	118
現武	37	21	27	16		101
子教	25	26	30	15		96
全体	568	384	487	385	4	1828

表 1. 学科学年別回答者数（人）

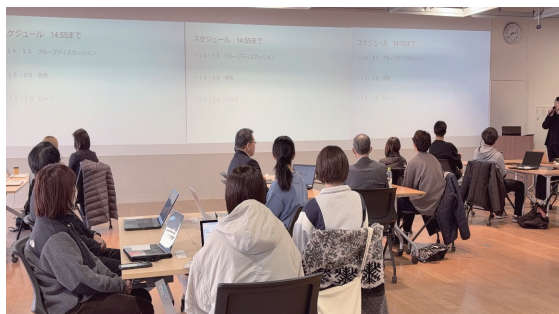
学科	1年生	2年生	3年生	4年生	総計
体育	84%	60%	86%	70%	75%
健福	94%	61%	75%	53%	72%
栄養	97%	69%	87%	69%	80%
ス情	94%	72%	67%	33%	70%
現武	93%	34%	59%	39%	54%
子教	93%	72%	103%	48%	78%
全体	89%	60%	82%	63%	73%

表 2. 学科学年別回答率（休学者を含む）

2. 概要まとめ
 - ・本アンケート調査は回答率が約73％と去年（73.6％）とほぼ同じ回答率であった。
 - ・全体を学年中心にみたとき、1年生と4年生を比較すると4年生での学習時間の増加および運動時間の減少がみられた。大学での学習目標については資格や免許の取得を目標とする割合は1年がもっとも高く、年次が上がるにつれて低下している。専門的知識技術はほぼ横ばいで、年次が上がるほど幅広い教養にシフトしていく傾向がみられた。卒業後の進路希望については1年生でスポーツ関連が高いが4年生はその割合が低くなっている。また、教員または保育士は1年生の割合は高いが4年生になると低下している。その低下の割合に比例するように一般企業希望の割合は年次が上がるにつれて高くなり、1年2年では一般企業希望の割合は有意に低い3年4年では優位に高くなっている。
 - ・全体を学科中心にみたとき、学習時間は昨年ほどに学部ごとの顕著な差はみられなかった。運動時間は体育学科の学生が比較的多くの時間を確保している。一方で健康福祉学科、スポーツ栄養学科、子ども運動教育学科の30分未満の割合が有意に高くなった。これらは昨年と同様の傾向である。大学での学習目標は免許・資格の割合がスポーツ栄養学科や子ども運動教育学科で高く、免許・資格取得が前提の学科の特徴を表していると示唆される。進路希望についてはスポーツ栄養学科の学生の4割ほどが栄養士を希望しており昨年と同様の傾向がみられる。また公務員、教員または保育士は学科を問わず一定の希望者がいることが明らかとなった。特に教員または保育士希望と答えた体育学科の学生の割合は3割を超えており、取得希望者が多い。

報告 REPORT

令和6年度 学生参加型 FD 研修会について 「グループワークの困りごと」



日 時：12月10日（火）14：30～15：50

会 場：LC 棟1階

テ ー マ：「グループワークの困りごと」

出 席 者：＜FD 委員＞平良委員長、朴澤教育企画部長、後藤委員、林委員、遠藤委員、山口恭委員、
玉置教務部長、須藤委員、桑島委員

＜新任教員＞鈴木秀利副学長、猪狩先生、中里先生、石澤先生、松井先生、平山先生、小川先生

＜協力学生＞青柳結依さん（子ども運動4年）、太田喬士さん（体育2年）

山縣そらさん（スポーツ栄養3年）、エネクリスティーナ・ジェニファーさん（現代武道2年）

松岡風磨さん（健康福祉2年）、加藤那捺さん（スポーツ情報1年）

菊地芽依さん（現代武道2年）、梅津采咲さん（スポーツ栄養4年）

高橋珠有子さん（子ども運動4年）、高橋麗さん（健康福祉1年）

鶴飼遥さん（スポーツ情報1年）、佐藤莉隠さん（体育4年）

内 容：

- (1) 開会式：14：30～14：40
挨拶・研修会の進め方についての説明
- (2) グループ討議：14：40～15：20
グループセッションに分かれて討議
- (3) 全体会：15：20～15：50
グループ発表、意見交換・講評

グループ	教 員	体育	健康福祉	スポ栄	スポ情	現代武道	子ども
A	平良拓也 平山相太	太田喬士		山縣そら			青柳結依
B	猪狩一彦 鈴木秀利		松岡風磨		加藤那捺	エネクリス ティーナ・ ジェニファー	
C	石澤浩二 小川真季			梅津采咲		菊地芽依	高橋珠有子
D	林 直樹 松井陽子 中里和裕	佐藤莉隠	高橋 麗		鶴飼 遥		

グループ討議のまとめ（学生・教員の意見）

<A グループ>

- ・初対面・関係性がないと役割分担必要
- ・分担あっても話すのが苦手な人は、話しにくい
- ・教員の働きかけが重要

<B グループ>

- ・教員「グループ分けで難儀」：席を変えさせる
- ・テーマ設定や課題の意識を重視
- ・学生：学部が混ざるとやりにくい、やる気ない人いると伝染する
- ・人数が多いとフリーライダーが出てくる

<C グループ>

- ・グループの決め方は分け方が様々
- ・役割を決めていないとがんばってる人が損をする
- ・フリーライダー問題はある
- ・教員が考えるグループワークの醍醐味 VS 学生の不満
- ・先生の話提供の仕方によって生徒の進め方が変わってくる
- ・グループワークだからこそ学生任せではなく先生の働きかけ大事

<D グループ>

- ・主体性のある人が集まったり、意見が少ない人が集まるとうまくいかない
- ・リーダー気質だけでもまとまらない
- ・大人数だと欠席者が出たときにうまく進まない
- ・組み合わせで弱い立場の人を引っ張る人が必要
- ・コミュニケーター、ファシリテーターの育成が重要



.....
SUFD Report2024 令和6年度仙台大学FD年次活動報告

編集：仙台大学 教育企画部 教育改善企画運営委員会

委員長：平良拓也

委員：白幡真紀 後藤満枝 林 直樹 田口直樹 佐藤周平 山内明樹 齋藤長行 山口恭正 遠藤教昭

発行：仙台大学

〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南2丁目2番18号 電話：0224-55-1121（代表）

制作・DTP：株式会社仙台紙工印刷

発行年月日：2025年3月31日